

南奥駆道(山在峠)金剛多和(五大尊岳南峰)台風後の点検巡視

◇実施日：2017年11月19日(日) 晴時々曇り

◇参加者：川島 功、児嶋道夫、生熊敏男・千満子、高階美根子

山川治雄・白妙、上村洋司・和美、栗原真行、

梶野照雄。

11名。

台風21号通過直後に、床上浸水被害の後片付けをしていた事務局・沖崎宅へ、十津川村教育委員会から「登山者から玉置辻からの奥駆道で土砂崩れ、倒木等で通行不能との連絡があったので、現地確認依頼」と思われる電話連絡があり「土砂崩れが林道拡幅地点であれば、山彦ぐるーぷでは復旧出来ない」旨を返答した。

我々は、行仙宿水場等(二ノ三)、持経宿・平治宿の点検巡視(二ノ四)と、大日岳・大日如来坐像等(二ノ五)の台風21号・22号の被害調査と復旧作業を優先して実施して来た。

十津川村観光協会のお知らせに「10/23から奥駆道の玉置神社(七越峰間の通行止め)が継続されている事から、通行止め箇所での現地確認の点検巡視をHPで11/16に実施するお知らせをした。山川さんから11/16に、11/19の行仙宿への旧行事企画を見て、国道425号線「通行止め箇所」の凹凸路面に敷く土嚢袋20袋を準備した」と連絡がある。通行止め箇所は、業者が工事を開始している、未だ通行止めになっている七越峰(玉置辻間の点検巡視を、2班に分けて(玉置辻班・七越班)実施する旨を伝えた所、参加して下さるとのこと、本当に有難い。

二ノ二山川さんが、七越峰(山在峠間)を下見して下さり、吹越峠辺りに根返り倒木等の風倒木が多数あり、この風倒木は森林組合等のプロにより切除処理されていて、山在峠まで下見して来た。

山在峠から標高が高くなるので、同様な風倒木が集中している可能性があり、2班編成で無く全員で点検巡視した方が良いとの

アドバイスを受ける。

熊野本宮館駐車場へ8時迄に集合とした。

川島車(児嶋・生熊夫妻同乗)が、7時45分頃に到着すると、伊賀市を3時半に出られた栗原氏(單車)、堺市を5時に出た梶野氏、山川夫妻(軽トラ)、上村夫妻(車)、紀北町の高階車が既着。

自己紹介と山川氏から吹越峠辺りの下見報告をして頂き、2班に分けず全員一緒に行動する事にした。

山川、上村、梶野、川島車に分乗し、上切原の山在峠への林道路側に梶野車をデポし、3台で山在峠(標高265m)へ。

昨日の雨も上がり、典型的な冬型気圧配置になり、やはり寒い。登山準備を整え、林道上の宝篋印塔へ上ると、風による落枝・落葉が沢山散乱していて、大きな物は除ける。



山在峠で登山準備

宝篋印塔で落枝処理

小径木の鋸切除

程なく、皆伐された斜面に植林の幼木に被せた袋ネットが飛散し、獣除けネットが奥駆道へポール毎倒れて少し歩きづらいが、獣除けネットポールは、ハンマー等で叩かないと復旧できない。

この地点を過ぎると小径木があり、鋸の出番である。尾根南側鉄塔付近の急斜面を上り天然林主体の尾根上に出るが、予想した風倒木が無く、谷間の篠尾集落から国道228号線を望める鉄塔で小休止する。

風も弱く陽光もあり急登して来たので寒く感じない。



眺望のある鉄塔で小休止 登山道の落葉掃く

大黒天神岳山頂にて

落葉のある急な奥駈道は、上村氏が小竹箒で掃いて除けて下さり、後に続く者は歩き易い。

落枝を除けながら大黒天神岳(573.9m)に到着。小休止後、後続は登頂して来ていないが、倒木があれば処理する間に追いつくので先行すると、腐倒木が在り山川氏がチェンソーで切除。

金剛多和手前の鉄塔巡視路分岐(水場分岐・3分)から水場点検に立寄る。道に小腐倒木が在ったが道の崩れは無く、水場には昨日の雨後のため、水量も多く上戸も飛散していなかった。



天神岳下りで腐倒木切除

水場に異常なし

金剛多和・役行者石像前

思ったよりも風倒木が無く、順調に金剛多和(570m)に10時10分に到着。金剛多和の石がんに役行者石像が祀られている。

トタン屋根は、松本吉殖氏により仮設置されたが、出来映えが良いのか、上切原地区で改修するとの事であったが、未だ改修されていない。

此処は、六道の辻とも呼ばれている。六道とは、生前の行いによって人々が送られる冥界で地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天に分かれている。金剛多和は冥界の入口なので森沢義信著にある。

車は、上切原・山在峠に駐車しており、五大尊岳に向って11時過ぎ迄点検巡視し、引き返し金剛多和から下る事にする。

川島は、チェンソーのみ背負って登る。足の速い山川さんは、先頭で歩き腐倒木を1本処理されている間に、川島が先頭が変わり腐倒木を1本処理する。急斜面を登り、やや平坦な尾根に出ると根返り倒木が在るが歩行に支障は無い。

この頃から北寄りの風が強くなる。下方から11時を過ぎたと声がかかる。その地点で食事する様に声を掛け、更に少し登り五大尊岳南峰(585m)直下で引き返す。

この間の奥駈道は、雑木等の天然林主体で、落枝を除けて登って来たが、チェンソー切除した倒木は、腐倒木3本程度であった。



腐倒木を切除

登山道傍の根返り倒木

五大尊直下の戻り地点

落葉の急斜面は、竹箒で掃かれていたが、やはり上りより下りは慎重に下る必要がある。戻って来ると寒いのか、昼食せずに下っている、結局全員12時に金剛多和へ戻った。



落葉で滑る急斜面下る



金剛多和に戻る



風を避けて昼食

北風を避け、篠尾へ下る山道で昼食。昼食を終える前に、上村夫妻から暖かい豆腐味噌汁を振舞って下さり、冷えた体には本当に美味しくかった。児嶋さんからコーコーも差し入れて下さりホッとす。



昼食に豆腐味噌汁、コーヒーの差し入れあり



本日の作業者



昼食後、本日作業者の記念撮影をして、上切原へと下る。

この道は、篠尾と上切原集落を結ぶ生活道であり、斜面を緩やかに横切って下るが、所々足場の少ない箇所や猪に掘り返された所がある。約25分歩くと、平成23年に山腹斜面が大崩落し崩落止め工事がされて手摺のある道を辿り、渡り終えた地点から工事再開の下モ谷工事林道を辿り、上切原の山在峠への林道口へ。



金剛多和からの下山道



大崩落の復旧工事斜面



下モ谷林道を下る

梶野車で山在峠に駐車した車運転者を回送して貰う。吹越峠付近の風倒木の処置状態を見届けに立寄る。風倒木が沢山処理されており、標高の低い地点でこんな状態ならば、山在峠上でもかなりの風倒木があると推測されたことに納得する。



吹越峠付近の風倒木帯の切除状態



熊野本宮館前で終礼



山在峠から戻り、乗って来た車に分乗し、熊野本宮館に全員無事に到着。終礼をして14時20分に解散となり各自帰宅した。今回の点検巡視により、奥駈道の七越峰より山在峠より五大尊岳迄は、道の崩落、支障となる倒木が無くなり歩行可能となり、金剛多和から上切原への下山路も支障ない事を確認した。次週(11/26)には、本宮辻より大森山間の点検巡視を実施予定。



行動タイム

熊野本宮館 P 07:55 → 08:20 山在峠 08:25 → 09:00 鉄塔 09:10 →
09:35 大黒天神岳 09:40 → 水場分岐 → 水場 10:00 → 水場分岐 →
10:10 金剛多和 10:20 → 五大尊南峰直下(引き返) 11:10 → 12:00
金剛多和(昼食) 12:40 → 13:10 下モ谷工事林道終点 → 13:35 上切
原車ダボ地 13:40 → 吹越峠 → 13:50 山在峠 → 14:00 上切畑 → 14:10
熊野本宮館 P (解散) 14:20。

(記：川島、写真：梶野・川島)